

【がん種】 [多発性骨髄腫](#)
【レジメン名】 皮下DMPB③10コース目～
【登録番号】 011359
【1コースの期間】 4週間
【投与間隔調整規定】 -3日
【総コース数】 PDまで(皮下DMPB②2～9コース目 終了後から)
【催吐性リスク】 最小度:ダラキューロ
【抗がん剤の組織障害性】 ノンビシカント(非壊死性):ダラキューロ
【投与量に制限のある薬剤】 なし
【主な有害事象】 白血球減少、好中球数減少、貧血、血小板数減少、注入に伴う反応、疲労、傾眠、間質性肺炎、悪心、嘔吐、食欲不振、下痢、便秘、注射部位反応

【必要な検査】 一般採血、治療開始前に間接クームス試験を実施する(最終投与から6か月後までは、検査結果が偽陽性になるおそれがあるため).
【根拠論文】 N Engl J Med 378:518-528, 2018. Lancet Haematol 2020; 7: e370-80.

【点滴の時間】 -
【その他】 ダラキューロ:治療開始前に間接クームス試験を実施する(最終投与から6か月後までは、検査結果が偽陽性になるおそれがあるため).

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日		
					1	...	28
1	レスタミン錠 10mg アセトアミノフェン錠 200mg デカドロン錠 4mg	5 錠/回 4 錠/回 5 錠/回	内服	1日1回 ダラキューロ投与1時間前	○		
2	ダラキューロ配合皮下注 臍から左 or 右に約7.5cmの腹部	1 本 調製開始から4時間以内に投与終了	皮下注	23～25Gの針 3～5分	○		

【皮下DMPB③10コース目～減量・休薬・中止基準】

N Engl J Med 378:518-528, 2018.

減量	ダラキューロ	ベルケイド	アルケラン	プレドニン
開始量	1800mg/body	1.3mg/m ²	9mg/m ²	60mg/m ²
1段階	減量しない	1.0mg/m ²	6.75mg/m ²	45mg/m ²
2段階		0.7mg/m ²	4.5mg/m ²	30mg/m ²
3段階		中止	中止	中止

有害事象	Grade	用量調整
注入に伴う反応	3	3回発現した場合、ダラキューロ中止
	4	ダラキューロ中止
血液毒性	4	ダラキューロ休薬
感染を伴う好中球数減少		ダラキューロ休薬
発熱性好中球減少		改善するまで休薬し、アルケラン・ベルケイド1段階減量
血小板数減少 出血を伴うGrade3		Grade2以下になるまで休薬し、アルケラン・ベルケイド1段階減量
血小板数減少	4	Grade2以下になるまで休薬し、アルケラン・ベルケイド1段階減量
Grade3以上の非血液毒性		ダラキューロ休薬
※下記の場合は除く		
・制吐療法に反応する悪心・嘔吐	3≦	
・止瀉薬に反応する下痢	3≦	
・ベースライン時に認められていた、又は最終投与後7日未満持続するGrade 3の疲労又は無力症		
浮腫	3≦	プレドニン1段階減量
疲労	3≦	ベルケイド1段階減量
便秘	3≦	Grade1以下になるまで休薬し、ベルケイド1段階減量
下痢	3≦	Grade1以下になるまで休薬し、ベルケイド1段階減量
薬物量で制御困難な消化不良	1~2	プレドニン1段階減量
or 十二指腸潰瘍 or 胃潰瘍 or 胃炎	3≦	Grade1以下になるまで休薬し、プレドニン1段階減量
湿疹	2≦	Grade1以下になるまで休薬し、ベルケイド1段階減量
水泡を伴う湿疹		ベルケイド中止
多形紅斑	3≦	ベルケイド中止
ヘルペス感染・帯状疱疹		感染から回復するまで休薬
薬物療法で制御できない高血糖	3≦	プレドニン1段階減量
血栓塞栓症	3≦	回復するまでプレドニン休薬
末梢性ニューロパチー		
疼痛 or 機能消失を伴わないGrade1		減量しない
疼痛を伴うGrade1 or Grade2		ベルケイド1.0mg/m ² に減量
疼痛を伴うGrade2 or Grade3		ベルケイド回復するまで休薬。回復後0.7mg/m ² で投与
Grade4		ベルケイド中止
その他の副作用	3≦	原因薬剤をGrade1以下になるまで休薬し、原因薬剤を1段階減量